

岡山県河道内整備実施計画の概要

背景・目的

- ① 近年、大規模かつ広域的な豪雨が頻発しており、河川の氾濫や堤防の決壊など、県民の洪水に対する防災意識が高まる中、**河道内の堆積土や樹木に対する不安は高まっている。**
- ② 河道内整備が必要な箇所を明確化し、効果的・効率的に河川の流下能力の維持・向上を図り、**早期の治水安全度の向上・回復、県民の洪水に対する不安の低減に取り組む。**

計画の期間

令和2（2020）年度～令和6（2024）年度 [5か年]

これまでの取り組み

【河川の状況把握】

「岡山県河川維持管理計画」により、定期的な巡視や目視による点検等を実施し状況を把握。

【河川の維持管理対策】

巡視・点検の結果等を踏まえ、河川管理上支障となる場合は、河道掘削・樹木伐採を実施。

課題

【対策状況】

限られた予算で河道掘削や樹木伐採を実施しているが、**地域の要望の高まりなどに対し、適切に対応していくためには、優先度を評価し、効果的・効率的に河道内整備を実施する必要がある。**

優先度の評価

河道内整備（河道掘削、樹木伐採）を、これまで以上に効率的、効果的に実施するため、**箇所毎に影響度と重要度から優先度を評価し、優先度の高い箇所から対策を実施する。**

【影響度の評価】

河道内の堆積土、支障木が流水に与える影響（阻害率）により評価



■影響度の判定

影響	影響の度合
特に大きい	阻害率が概ね30%以上の状態
大きい	阻害率が概ね15%以上の状態
小さい	阻害率が概ね15%未満の状態

【重要度の評価】

沿川の浸水リスクや背後地利用状況等により評価

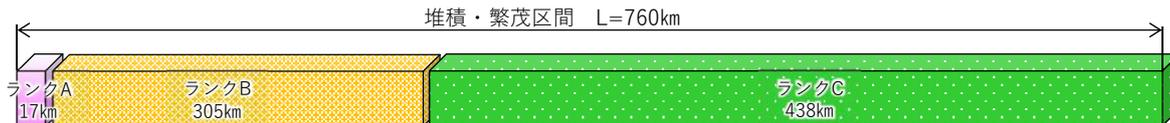
■重要度の判定指標 [例]

指標	指標の概要
浸水発生ポテンシャル	近年の浸水実績や重要水防箇所の指定状況等により判定
被害ポテンシャル	背後地の人家、防災施設等の立地状況により判定
箇所特性	市町村からの要望や有堤・掘込河道の別により判定
その他	発生土の受け入れ先の確保等により判定

【優先度の評価】

影響度および重要度を総合的に判定し、優先度を3段階で評価する。

ランク	分類	判定の概要
A	緊急対策	優先度が特に高く緊急に対策が必要な箇所
B	要対策	優先度が高く対策が必要な箇所
C	監視	当面は経過観察する箇所



管理基準および目標

管理基準

- ・阻害率を、15%未満に維持する。
- ・ただし、直ちに上記水準での管理は困難なことから、優先度の高い箇所から計画的・段階的に上記の水準への移行を進める。

本計画期間の目標

- ・ランクA（緊急対策箇所）を解消
- ・ランクB（要対策箇所）の延長を約3割削減